

令和 4 年度
第 2 回 那覇市観光審議会
会議録（要旨）

那覇市役所 経済観光部 観光課

令和４年度 第２回那覇市観光審議会

１．日 時：令和４年６月１７日（金） １４：００～１５：３０

２．場 所：那覇市役所５階 庁議室

３．議題

（１） 那覇市コロナ期観光回復戦略の進捗評価について

（２） 今後の取組に関する提言について

テーマ１ 取組イ－（１）消費・宿泊需要喚起について

テーマ２ 取組イ－（２）事業継続支援・応援給付金について

◆配布資料

- | | |
|-----|---|
| 資料１ | 那覇市コロナ期観光回復戦略の
進捗状況に対する観光審議会委員評価及び提言シートの集約 |
| 資料２ | 進捗評価・提言シートにおける質問への回答について |
| 資料３ | 那覇市コロナ期観光回復戦略の目標値と現状について |
| 資料４ | 令和４年度 第２回観光審議会 ご意見シート |

那覇市観光審議会委員名簿

NO.	委員氏名	所属	役職等	選任理由	備考
1	キンジョウ モリヒコ 金城 盛彦	国立大学法人 琉球大学	教授	学識経験者	大学
2	オオタニ ケンタロウ 大谷 健太郎	公立大学法人 名桜大学	教授		大学
4	ヨザ ヨシヒロ 與座 嘉博	日本旅行業協会(JATA) 沖縄支部	支部長	観光産業関係	旅行業
5	キンジョウ ウヒトシ 金城 仁	那覇市観光ホテル旅館事業協同組合	副理事長		宿泊業
6	クニヨシ ヒロキ 國吉 博樹	沖縄セルラー電話株式会社	執行役員ビジネス開発部長		情報関連産業
6	インザカ アキヒロ 石坂 彰啓	那覇市国際通り商店街振興組合連合会	事務局長		商店街
8	ゲイダ ヨシハル 慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事		公共交通
9	ヨナ カズマサ 与那 和正	沖縄県飲食業生活衛生同業組合 那覇支部	理事		飲食業
9	アリキ マリ 有木 真理	株式会社リクルートライフスタイル沖縄	代表取締役社長		広告 企画調査
10	イシミネ トモヒロ 伊志嶺 友浩	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 観光課	観光課長	関係行政機関	国
11	マトリ ヒロキ 真島 洋企	沖縄県文化観光スポーツ部	観光政策統括監		県
12	メジマ ノリヒロ 目島 憲弘	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー	事務局長	その他市長が 認める者	OCVB
13	ナカモト ユタカ 名嘉元 裕	一般社団法人 那覇市観光協会	事務局長		観光協会

出席者

○審議会委員

13人中9人出席

金城会長、有木委員、石坂委員、伊志嶺委員、大谷委員、金城(仁)委員、
名嘉元委員、與座委員、与那委員

○那覇市

[経済観光部] 末吉部長、高宮副部長

[観光課] 永山課長、宮城主幹、長濱主査、城間主事

[商工農水課] 町田課長、比嘉主幹、照屋主幹

[なはまち振興課] 宮里課長

議題 1

(1) 那覇市コロナ期観光回復戦略の進捗評価について

発言者	発 言 内 容
事務局	資料に沿って説明。 資料 1 那覇市コロナ期観光回復戦略の 進捗状況に対する観光審議会委員評価及び提言シートの集約
会長	ご説明ありがとうございます。 進捗評価ですが、事務局からの説明のとおり、各委員からの評価の多数決により、総合評価が資料 1 のページ 1 のとおりになっております。 各委員の評価にバラつきのある取組内容もあるようですが、こちらの結果に意義はございませんでしょうか。 委員意義なし 特にご異議がないようでしたら資料 1-1 頁の総合評価を本審議会の那覇市コロナ期観光回復の評価とします。

議題 2

(2) 今後の取組に関する提言について

テーマ 1 取組イー（１）消費・宿泊需要喚起について

テーマ 2 取組イー（２）事業継続支援・応援給付金について

発言者	発 言 内 容
事務局	資料に沿って説明。 資料 1 那覇市コロナ期観光回復戦略の 進捗状況に対する観光審議会委員評価及び提言シートの集約
会長	議題（２）今後の取組に関する提言についてですが、第 1 回観光審議会後に、評価・提言シートを各委員それぞれ提出されたかと思います。そのシートに記載した提言について、各委員からご説明や補足等お願いしたいと思います。 まずは、テーマ 1 取組イー（１）消費・宿泊需要喚起について提言していただきたいと思います。それでは、こちら側の委員からお願いいたします。
委員	私が委員を務める水産業振興協議会において、落ち込だ消費をどうすると意見が上がりました。ホテルの仕入れも鈍っており、那覇の水産資源を使用するようにホテル業界と連携できないかという声もありました。那覇ならではの食材を生かす観点からは、水産資源であるマグロを上手く活用できないかということがあったので、市としても一次産業と連携した消費喚起策が必要なのではと考えています。
委員	じゃらんの中でも遊び体験などある中で、業界ごとに偏りがあるのではと思っています。現状を業界毎、事業者のカテゴリー毎にモニタリングしていくことが重要と思っています。また、食の話がありましたが、食・宿泊の喚起を考えると、那覇市は夜泊まって飲んで、食べて、という行動をどうツーリズムにするか、それによって宿泊が伸びていくと思います。特に今は、夏場に向けてレンタカー不足が言われているので、これを逆手にとって市内周遊を企画するべきと考えています。 北谷の飲食店の売上がゴールデンウィークは伸びたと聞きましたが、事業者さんのお話ではレンタカー不足で逆にお酒を飲んで楽しむ、ということに繋がっていることもあるようで、そういったツーリズムどう喚起するかが重要と思っています。
委員	全国のお客様に対しての誘客 PR を如何に行うかに尽きると思います。コロナの経験は初めてのものですので、回復に向けて市民・観光客・専門家等の意見を取り入れながら変化に対応していければいいと思います。将来に向けた考えも目を向けつつ、目の前のこともやっていかないといけないなど多岐にわたりますが、大きな目標に向け、一つ一つ積み上げていく必要があると思います。

発言者	発 言 内 容
委員	報道によれば国は GoTo キャンペーンに続き、県単位で広く旅行目的の来訪者に補助金を出せるような形の旅行支援事業実施を予定しているようで期待しています。それを活用して来訪する方に向けて、那覇市としてさらに上乗せしていけないかと思います。ホテルの予約状況で言えば那覇市は弱いです。恩納村や沖縄本島北部や離島の宿泊予約が先で那覇市は低い状態が続いているので、これを如何に伸ばしていくかを仕掛けていかないといけないと思います。 また、観光シーズンの夏場に向けてもレンタカー4割減は明白だとレンタカー協会の方に聞きました。レンタカーがないから沖縄に来ないという方も出てきているようです。そうではなくて、那覇の宿泊で特典があったり、那覇の夜の滞在を過ごせるのか、食はどのような楽しみがあるのかということを上手く PR して那覇での滞在を伸ばす対策を早急に打っていただければと思います。決して秋頃でも那覇はまだまだ人は戻りきっていないと思うので、しっかり取り組んでいただきたいと思っています。
委員	消費喚起となると金銭的な支援、インセンティブを得られるようなプランの提案が必要だと思います。また、レンタカーが足りないのはこれからの観光の在り方について問われているところだと思います。那覇を素通りさせずに那覇に滞在していただくには那覇の魅力として体験したりできる楽しむことができるコンテンツを作ることが必要で、それに対して行政や業界が取り組んで磨き上げていくものだと思います。 幸いにも、福州園が7月にライトアップリニューアルオープンされます。ナイトコンテンツとしてこれを起点に周遊するものが増えればいいかと思います。 もう一点として、都市型のビーチとして波の上ビーチがあります。海＝沖縄、沖縄＝リゾートと言えば中北部や離島が想起されやすいですが、那覇のビーチも綺麗になっており、波の上ビーチを核とした取り組みが進められようとしています。また、港湾計画の中で那覇ウォーターフロント計画が示されているため、実現に向けた各種取組が必要だと思います。 沖縄は離島県ですので宿泊をしなければ滞在時間は延びませんし、宿泊をしてもらうには楽しみがないと伸びないという関係だと思います。なので、宿泊を増やすためには楽しみを増やす、その場を増やすことが必要かと考えています。
委員	まん延防止期間中にとまーるクーポン事業が中断したことの代替の支援ができたのではと思います。今後の支援事業では、地域経済に効果的な支援になるように、

発言者	発 言 内 容
委員	那覇市の観光需要等を刺激するためにどういった事業者支援した方が効果的か検討したり、体力が弱い中小企業、資本金を基準にした支援やエリア毎で区切ったりするなど、優先順位をつけた支援があるといいのではと思います。 なはとまーるクーポンで、認証店舗を推奨していただいたりしたら消費喚起に繋がったかと思います。北谷の集客ついて話題がありましたが、週末に組合が花火を上げ集客を図り、地元客も観光客の集客ポイントにできているようです。北谷の方々ともお話しすることもあります。那覇は国際通りが代わり映えしないということ言われているので、集客に繋がる市の支援が必要だと思います。回復期に向け、国際通りでパレードをするなど考えられるかと。先日、ポケモンパレードが国際通り、北谷で開催され集客に繋がったようですので、今後も市が率先してイベントを行うことで滞在者数にも影響を与えるかと思っています。 また、那覇マグロの発信が弱くもったいないと感じます。お客様にもマグロ産地を聞かれ、那覇マグロと伝えると「初めて知った」との声が多いです。その辺りのPRも率先して進めていただきたいと思います。
委員	日本旅行業協会（JATA）、前項旅行業協会（ANTA）からの声でもあります。事業者の網羅率といいますか、どれだけの事業者が恩恵を授かっているかという点ですが、とまーるクーポンや貸切バス支援事業などですが、旅行業者は対象にならないことが多々あったようです。事業者の公平性の点から旅行業者も加えてほしいと要望がありますので、今後も同様の事業があればご検討いただきたいと思いますと考えております。
会長	ありがとうございました。 事業継続支援について、先に退席される委員からご意見いただきたいと思います。
委員	飲食に関しては協力金が出ていると思われるが、国際通り自体が人出は6割ほど、平日は3割ほどしか戻っていませんので、飲食業界としては雇用継続をどのようにしていくか課題です。 また、糸満市に本社があり国際通りに店舗がある場合は、雇用を守り支援事業は非該当でした。対象事業者が分かり辛かった部分があったので、分かりやすく広報してもらえればと思いました。

発言者	発 言 内 容
委員	商店街の中でも年配の方からも質問があるので、分かりやすいように事業を広報していただければと思います。利用者が早く、分かりやすく給付を受けられるように進めていただければと思います。
会長	ありがとうございました。追加でご意見あれば皆さんお願いします。口火を切りますが、レンタカー不足は必然との意見が多数ですので、周遊バスを走らせるなど検討しても良いのかと思いました。
委員	国際通りではこの夏に東京バスと提携して、ウミカジテラスや豊崎のビーチなどを通るバスを利用できるクーポンを国際通りのホテルで販売しようとしています、夏の対策として考えていますので情報提供します。
会長	先行事例もあるようですので参考になります。路線バスの路線を踏まえ頻度や時間帯等を踏まえた周遊ルートの研究、調査事業が必要と考えています。
委員	国際通りのナイトマーケットやウォータフロントエリアでのイベントなど、毎週日曜日にここにはこれがある、というようなことを周知していかないと1泊することの魅力造成は難しいのではと思っています。事業者各社は頑張っていますが集約するところがないと感じていますので、毎週コンテンツ発信の場があると良いと思います。コロナ禍を機に、どうしてもこれに行きたい、というコンテンツを作っていくことが非常に重要だと感じました。
委員	共有となりますが、トランジットモールの時間変更について組合員等からも度々要望がありアンケートを取っていますが、結果的に今の時間帯が良いという回答が多くなります。実証的に違う時間を検討しているが、雨等で実施できませんでした。 また、今後に向けて、エイサーを毎週日曜日に国際通りで見れる、ということを定着させようとしています。地元客や観光客が見れる場にしていこうと考えています。
会長	E Cに力をいれていくべきという意見として、「47CLUB」は是非継続した方が良いと思います。県外利用者が75%を占め、それなりの数字が出ていますので。常設して展開し、マグロなどの産品を載せてもいいかと感じました。

発言者	発 言 内 容
委員	個人的見解となるかもしれませんが、那覇マグロのブランド化については反対。沖縄の美ら海マグロですら定着していないのに、那覇マグロと限定して県外等へPRすることはあまり意味がないのではと思っています。実際7割の水揚げが那覇にあることは分かるので、美ら海マグロと一緒にPRした方が良いのでは。美ら海マグロという名前と比較して那覇マグロ、と聞いても個人的においしいと感じていないので、県と連携して美ら海マグロをさらにPRしていった方が効果的だと思いますので、一意見としてご検討ください。
委員	貴重なご意見だと思います。水産業振興協議会でも那覇マグロのブランド化の話題は出ています。美ら海マグロと那覇マグロの差別化が出来ていないなど課題が多い中で、まさに今から専門家や現場の声を入れながら調査グループのようなものが市の中で立ち上がっていますので、ブランド化に動いていこうとしているところです。
事務局	那覇市民ですら県内水揚げの7割が那覇であることは知らないことです。泊の水揚げが糸満市場に移転することが目の前に迫っているなかで、市民に知っていただくことが大切だと考えています。第一次産業として唯一である那覇マグロのブランド化を、先ほどの意見も参考に進めていこうと考えております。
委員	消費させるには、宿泊を伸ばすにはということについて私も含め他の委員も提示してきたところですが、それを進めるには現状業界や同業種の中で力のない中でも自費で様々な取組をしているところに行政として支援をしていくことが必要だと思います。現在、早朝・夜間の活動時間創出支援事業が募集されているとのことですが、対象事業を限定してしまうとそれ以外の事業者提案を支援できないのはどうかと思っています。 そこで、現状ではコンテンツ創出がキーワードであると考えています。先程から話題が出ているように、魅力を出すために作り上げるものを支援してもらいたいと思います。例えば、ある団体が取り組みを進めるために設置した協議会で企画したものを支援するメニュー、補助事業で支援した方がより即効性があるのではと思います。 全国各観光地は悲惨な状況です。新たなもの、楽しんでもらうものと色々と策を練って検討していると思います。今年中に動くには早急に補正予算を組む動きが必要だと思いますが、それくらい事業者としては待ってられない状況です。那覇市

発言者	発 言 内 容
会長	も地域の魅力、光るものを表に出していくこと、こういったことに支援をしていただけだと思います。 審議会とは別の組織として協議会なりの組織の立ち上げを検討していただければと思います。
委員	どんなイベントを開催するかも迷うところがあります。イベントをやるにもいらっしゃる人が何を求めているのか、年齢もバラバラでターゲットがはっきりしないことがあります。ターゲットとなる年齢層を設定して何をするか、決めて実施するところに支援できればと思います。エンタメ業界も宿泊業界と同様非常に打撃を受けていると思うので、行政の支援があればと思います。那覇市の中で、ロックフェスティバルや年配の方向けのイベントなど、一個一個（ターゲットを明確に）開催していくことが必要だと思います。 NHK ドラマちむどんでは沖縄の食材が多く活用されているのでそれを上手く使って、那覇市の魅力も出していければと思います。飲食業組合もホテル組合も連携してやっていきましょう、ということを検討出来たらなと思います。やんばるでは、ちむどん井井というものを作るなど動きがあるようです。9月までのドラマなので、7・8月で盛り上げることに活用できればと考えています。
委員	那覇市内で花火を上げるのは難しいと思うので、国際通り等でドローンで花火のように飛行させるなど工夫はできるのではと思いました。那覇市ですので安室奈美恵記念館をてんぶす館に設置し記念館的にすると聖地巡りをする方もいらっしゃるかと思います。民間がやること、行政がやることを連携してできればなど。行政が民間提案を吸い上げて実現に動いていくことが必要だと思います。
会長	テーマ2に移ります。テーマ2 取組イー（2）事業継続支援・応援給付金についての提言ですが、さきほどのテーマ1と同じように、各委員それぞれの提言をお願いしたいと思います。
委員	行政に様々な支援メニューがある中で、ニーズや使い勝手などがマッチしていたか検証がこれから必要になると感じています。市ならではのものがどうだったかという視点ですね。

発言者	発 言 内 容
委員	観光人材についてですが、コロナ禍が落ち着くとインターンシップ制度などいろいろ話があると思いますが、事業者は余裕がなかったりプログラムの再構築などやらないといけないことがあったりすると思います。そのような事業者への支援をするために、市としてインターンシップ受入に関する支援などがあればと思います。 止血という観点では良いと思うが、本当の意味で厳しい時期（返済など）はこれからと感じており、閉店に追い込まれる事業者もまだまだ予断を許さないと思います。これからは給付金も大切ですが、ネクストアクションに繋げたり持続的な経営に繋がる支援が必要だと思います。例えば雇用との観点でいえば雇用給付金だけではなく、プラスでモチベーションを持ち続けるためのセミナーなど、業界で働き続けたいと思うようなものなどをセットしていくなど、継続的に支援することが重要だと思いました。
委員	私も継続的な支援が必要ということに同意です。この後、人材がどうなるかが課題かと思っています。現時点では忙しくないで店主だけで回している状況のお店でも、今後コロナ禍から回復していくと人手不足が起きます。今、気になるのは時給差が生じているところです。若い人たちは昼間でもワクチン接種事務などの時給が高いところに流れていると聞きます。業界を離れた人たちが戻ってくるにはどうしたらいいかとなったら時給を上げるための施策などを積極的にやっていかないといけないと思います。物価高や円安、戦争などいつまで続くか不透明な様々な要因が私達の生活に影響を与えており、生活費をカバーするだけの給与アップも考えていけません。那覇市の観光業界にどのように人を戻していくかについて、今の内から想定し検討していただければと思います。
委員	事業者への支援については国・県・市に対してはかなりの要望があり、国・県などのデマケを考えながら市としての実施スキームは固まりつつあるものだと思うので、ニーズがあれば対応していただきたいと思います。ただ、社会市場環境の変化に応じたニーズの把握、企画立案、迅速な実行を短いスパンで回していただきたいと思います。1年も2年も掛けては適時性・実効性がありません。コンパクトに実施していくことが、コロナ期回復戦略の目的でもあると思いますので、以上を念頭に置いて取り組んでいただけたらと思います。

発言者	発 言 内 容
委員	国の支援等含めて、人材不足や事業継続ができなくなったなど一定程度いらっしやると聞いているので、アンケート調査等から効果的な支援ができないか検討が必要だと思います。 国内客回復やインバウンド再開していくとレンタカー不足が夏場に向け考えられます。車両、施設、人材に関しては一朝一夕に解決できるものではありませんので、提案としては今ある資源を有効に活用していくことだと考えています。当面の対応策として、非接触の取組推進や MaaS 等のデジタル技術取り入れることや、デジタルコンテンツ創出に取り組む事業者への支援なども良いのではと思います。今後夏場・冬場の需要に向けて集中的に支援していただけると良いかと思います。
委員	事業継続支援等のゴールが何なのかを考えると、事業者が自走できるように回復するところであると思います。そこに至るには、各事業者がどのようなことに困っているのか、ヒト・モノ・カネ・情報のどれなのか、などを把握するために中小企業実態調査は継続して欲しいと思いました。また、その結果に応じた、支援策を実施して欲しいと思いました。
会長	追加で意見等ありましたらお願いします。
委員	少し違った話になるかもしれませんが、シドニーの街の話です。夜の街を彩るために、ビルに対して電気代を補填する代わりに電気をつけて欲しいという取り組みをしていました。現在、国際通りはすごく暗くなっていますので、これを国際通りで展開するなど、工夫して街並みを明るくできないかと思っています。明るいところには人は集まって行くと思います。エリア決めてでも良いと思うので街の雰囲気明るくなればと思います。そのような考え方もあると思いますのでご紹介でした。
会長	欧米の街灯は電球色で温かみがあったりしますが、日本でも LED 化を支援するなどで変化させていくことも良いのではと思います。
委員	国内客は復活の兆しが見えつつあり、インバウンドも再開するという発表がされているところです。那覇市にはクルーズも含めるとインバウンドは 300 万人来ていましたが、それを想定して動いているものはまだないのかなと感じます。インバウンド対応していたところでは人材が流出しており、戻って来ていただくのも一苦労

発言者	発 言 内 容
会長	だと思います。細かいですが接客の仕方、ポップの出し方などの負担もあると思います。観光協会としてもそういった支援を行っていきますが、事業者に対して、インバウンド対応ができる従業員確保など必要ですよ、というような周知することも必要かと思います。会長の新聞へのクルーズ客への寄稿がありましたが、インバウンドの消費単価の高さなどの経済効果を周知し、インバウンドは重要なターゲットであることを今の時期から認識を高めてもらう取り組みも必要だと思います。戻ってきてから対応できていない状況だと、またほかのエリアに人が流れてしまうことが起きかねませんので。 新聞に寄稿した件ですが、クルーズで滞在を期待するのは幻想であることを書いています。もう一点として、言葉は悪いですけど、クルーズはクルーズなりの儲け方を考えないといけないということを書いています。中南米などは、港で収益を上げられるような観光地経営をしていると聞いたことがありますので、そういったことを沖縄でも考えていかないといけないということを書きました。 海外の事例でハワイでは、社会保険を付けて人材募集しないと人材が戻ってこない状況があるようです。福利厚生面で充実してないと確保できないと感じます。例えば、社保単体で難しかったら共済も絡めたセーフティーネット構築するなど方法は検討できるかなと。また、人が足りないのであれば、市内の専門学校や大学等を対象に有給のインターンシップを実施すると、中長期的には観光系の学校を出た人材定着に繋がるのではと思います。
委員	前回DAY0（ディゼロ）の話がありました。沖縄に昼便で来て、1泊那覇で泊まってから次の日は中北部や離島等のリゾート地を巡るというものですね。コンテンツ造成の助成もありますが、全体としてこの日のこれに合わせて作り込む、という視点が必要だと感じます。商品は作るだけでは売れないので、どう集約して、プロモーションし、人を集めてくるかが重要です。那覇であれば例えば、毎週木曜日は那覇市に泊まってもらうんだ、ということを掲げればそれはブランディングにもつながると思います。その後に、離島に行こうが中北部に行こうがそれはニーズなので致し方ないことかと。夜のコンテンツ造成しても毎日ではできないと思うので、市としてこの日、という日を決めて地域全体で一斉に実施するなど、地域の連携を促すことがあっていいのでは。
委員	海外では毎週金曜日など決まった日に各ホテルが一斉に花火を上げるなどの取

発言者	発 言 内 容
委員	組をしているようです。大きいのを一度にやるのではなく、月1でもいいのでコンスタントに実施することが集客にも繋がると思います。 例えば那覇なら7日・8日としては。千葉市でも7・8を駅前で催しを実施しているようです。
委員	効果測定まで含めて1年実施してみて、効果があるかどうかまで検証できればと思います。効果があれば継続して実施し、税金を投入する方法は当然納税者からも理解を得られるのでは。実施した時としなかった時で、どれくらい誘客に差があったかなど明らかにし、リターンが得られると判断できれば継続していけばいいのではと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	委員の皆様がおっしゃるように、決まった日にコンスタントに催しやイベントがあれば良いコンテンツになると感じます。ただし、行政が新たなイベントを生み出すのは苦手な分野と考えますので、誘客に繋がるユニークな民の取組を行政は支援する、という形が望ましいかと考えています。
委員	やはり協議会のような形で検討が必要ですね。
会長	是非このような事業発注するときに、アプリケーションを使うのであれば、決済機能付加しデータの提供を条件として利用してもらうとすれば、効果測定は可能にできると思います。参加事業者には条件付けして参加してもらうことが有効だと思います。 皆様のご意見を整理すると、レンタカーがなければ、タクシーを午前中だけなど時間指定したマッチングの開発使い方などもありかと思い聞いていました。 公的補助が続いても、持たない事業者はフェードアウトしていくことになりますが、公的補助が始まる前に民間のつなぎ融資が大切になっていたり、その逆もあるかと思うので、そのような助成対象にする余地もあるかと思っています。 テーマ1・2に関わらず、提言の内容やこれまでの議論全般について追加でご意見等あるかたいらっしゃいましたらお願いしたいと思いますが、他にありませんか。 特に無いようでしたら、これまで委員の皆様からいただいた提言シートの内容及

発言者	発 言 内 容
	び、今回までにいただいたご意見等を盛り込み、答申の骨子案にしていくのですが、今回、テーマを絞ってご意見を頂きましたテーマ１，２の、取組イ－（１）消費・宿泊需要喚起、取組イ－（２）事業継続支援・応援給付金が答申案での「優先的に実施が必要な観光施策」になると思われますが、それ以外で「優先的に実施が必要な観光施策」に盛り込むべき取組の内容があれば、ご意見いただきたいと思いますがいかがでしょうか。 委員承諾 それでは、答申の骨子案についてですが、これまでの委員のみなさまからのご提言等を盛り込み、答申の骨子案を事務局にて作成していきたいと思いますがよろしいでしょうか。 委員承諾 ありがとうございます。それでは、本日はこの程度で終了とします。